

政策金利上げは成長力の証に

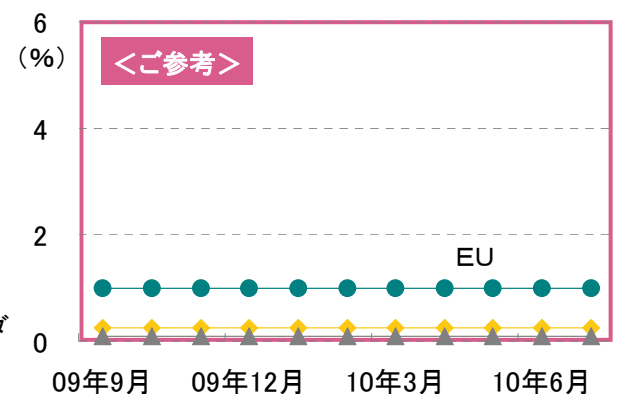
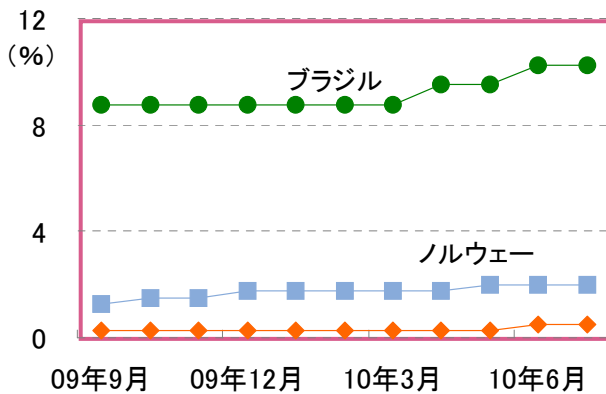
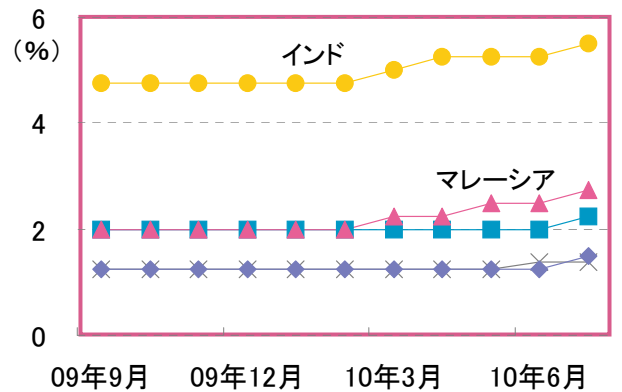
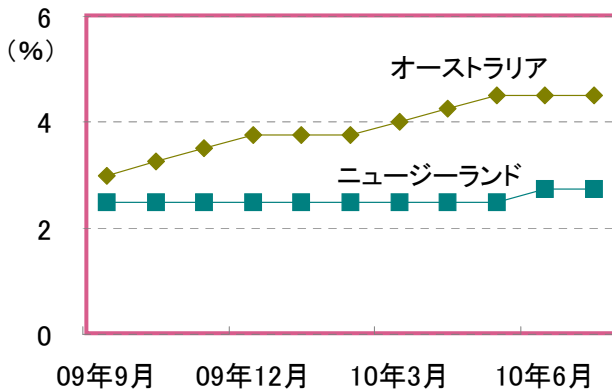
景気の先行き不透明感が払拭されず、低金利を続けている欧米などの先進国とは対照的に、国内景気の回復基調の強まりを受け、政策金利を引き上げる新興国や資源国が増加しています。

主要国の中でいち早く金利引き上げに動き出したオーストラリアとノルウェーに続いて、インド、マレーシアなどのアジア地域の国々が、また、ブラジル、カナダなどの資源国が相次いで金利を引き上げています。足元では、高成長が続く中国とインドに牽引され、景気回復の勢いの強いアジア地域に、金利引き上げの動きが広がっています。また、オーストラリア、ブラジルなどでは好調な景気や雇用の改善などを背景に、追加金利上げの可能性が指摘されています。

政策金利の引き上げが継続する場合、各国の成長速度に水を差す可能性に留意する必要がありますが、金利引き上げは成長力の証ともいえます。力強い回復を遂げているこうした国々と、当面の間低金利政策が続くとみられている国々との景気や金利の「差」に着目した投資が活発化すると期待されます。

2009年以降金利上げを行なった主要国の政策金利の推移

2009年9月～2010年7月※ ※7月は7月14日まで



※米国は0%～0.25%

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。